

令和7年度 厚木市と市内5大学との 連携事業計画

	連携の類型	件数（うち新規）
1	委員会等の委員（※附属機関等除く）	7(1)
2	学習講座等に対する協力 ① 市の講座に対する協力 ② 大学の講座に対する協力	11 8 3
3	学生によるボランティア	5
4	事業に対する協力 ① 市の事業に対する協力 ② 大学の事業に対する協力	25 19(4) 6
合計		48
※令和7年度新規事業数		5

1 委員会等の委員

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④必要性と効果	⑤事業開始年度	⑥事業費(千円)	⑦参加者 (教授等氏名、学生等)	⑧協働の形態	⑨課等名
1	県央やまなみ協議会（オブザーバー）	県央やまなみ協議会のオブザーバーとして協議会に参加し、専門性等を生かすことで協議会事業の円滑な実施に寄与する。	県央やまなみ地域における広域連携の取組として、民間企業・大学等との多様な主体との連携を通じて、様座な分野において、地域全体で相乗効果を生み出していく。	県央やまなみ地域の主要な大学の一つとして、県央やまなみ地域を一つのエリアと捉えた広域観光施策に精通しているほか、大学生による新たな視点での地域の魅力の再発見等が期待できる。	R6年度	-	・神奈川工科大学 研究推進機構技術支援室KAIT工房 小林 操 マネージャー	1_委員会等の委員	行政経営課
2	厚木市地方創生推進プロジェクト	厚木市地方創生推進プロジェクト と 思える魅力あるまちづくりに 向けた事業及びあつぎの魅力を 創造し全国に発信する事業を実施する。	20歳代を中心とした若い世代の定住促進・転出抑制を図る。	大学生の参加を得ることで、事業の趣旨である20歳代の定住促進を図る目的に寄与することができる。	H28年度	6,300	・神奈川工科大学 研究推進機構技術支援室KAIT工房 小林 操 マネージャー	1_委員会等の委員	企画政策課
3	厚木市友好交流委員会	市内大学関係者に委員として参加していただき、厚木市の国際交流事業に大学の意見を反映するとともに、大学との協働による事業を展開する。	友好都市等との交流、国際理解の促進、国際平和に貢献できる諸事業を推進する。	市内大学関係者に委員として参加してもらうことにより、厚木市の国際交流事業に大学の意見を反映するとともに、大学との協働による事業を展開するために必要である。	H13年度	-	・神奈川工科大学 工学部応用化学生物学科 飯田 泰広 教授 ・松蔭大学 観光メディア文化学部メディア情報文化学科 高橋 敏哉 教授 ・湘北短期大学 グローバルコミュニケーションセンター長 山形 俊之 教授 ・東京工芸大学 工学部・工学研究科 海老澤 模奈人 教授 ・東京農業大学 高橋 幸水 准教授	1_委員会等の委員	企画政策課
4	廃棄物減量等推進審議会臨時委員	廃棄物減量等推進審議会での「ごみ減量リサイクルポスター」と「ごみ収集車イメージアップ絵画」の審査をする。	専門的な学生の視点で、より良い審査をすることを目的とする。	「ごみ減量リサイクルポスター」と「ごみ収集車イメージアップ絵画」を審査するため廃棄物減量等推進審議会委員のみの審査ではなく、専門的な学生の視点で、より良い審査ができる。	R7年度 9月	39	・東京工芸大学 学生5人程度	1_委員会等の委員	環境事業課
5	松川サク工業振興基金事業	市内工業系大学の優秀卒業生に松川サク工業賞の授与を行う。	名誉市民の故・松川サク氏の遺志による寄附を基に、次世代の人材を育成し、工業の発展を図ることを目的とする。	将来の工業発展、次代を担う若者の科学心の高揚が図られる。	S63年度	400	・神奈川工科大学 尾崎 亮典 専務理事 ・湘北短期大学 総合ビジネス・情報学科 高嶋 章雄 教授 ・東京工芸大学 菅野 英夫 事務部長代理	1_委員会等の委員	産業振興課

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④必要性と効果	⑤事業開始年度	⑥事業費 (千円)	⑦参加者 (教授等氏名、学生等)	⑧協働の形態	⑨課等名
6	グローバル教育交流事業実行委員会	市内大学関係者に委員として参加していただき、厚木市の国際交流事業に大学の意見を反映するとともに、大学との協働による事業を展開する。	ニュージーランドや友好都市等との交流、国際理解の促進に貢献できる諸事業を推進する。	市内大学関係者に委員として参加してもらうことにより、国際交流事業に大学の意見を反映するとともに、大学との協働による事業を展開するために必要である。	R5年度	5,000	・湘北短期大学 グローバルコミュニケーションセンター長 山形 俊之 教授	1_委員会等の委員	教育指導課
7	厚木市・大学図書館相互利用連絡会	相互利用に関する実務担当者をもって組織し、相互利用を円滑に推進するための連絡会を開催する。 (平均年1回開催)	大学図書館及び中央図書館の実務担当者が図書館の相互利用を円滑に推進するため、貸出しの事務についての確認や協議を行う。	「厚木市内の大学図書館と厚木市立中央図書館との相互利用に関する協定書」で設置が規定されており、「厚木市立中央図書館所蔵資料の大学図書館への貸出しに関する取扱要綱」で、定めのない事項については連絡会で協議することになっている。各図書館の実務担当者が実際に顔を合わせ、意見や情報交換をすることができる唯一の場である。	H13年度	-	・神奈川工科大学 ・松蔭大学 ・湘北短期大学 ・東京工芸大学 ・東京農業大学	1_委員会等の委員	中央図書館

2-① 学習講座（市の講座に対する協力）

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④必要性と効果	⑤事業開始年度	⑥事業費(千円)	⑦参加者 (教授等氏名、学生等)	⑧協働の形態	⑨課等名
1	荻野公民館学級・講座「神奈川工科大探検とものづくり」	荻野公民館学級・講座の事業として、神奈川工科大学で、荻野地区在住の小学生を対象に神奈川工科大探検とものづくり体験教室を行う。	子ども達が、ものづくりの知識を楽しく学び、大学で学習することへの興味関心を広げることを目的に「神奈川工科大探検とものづくり」を開催する。	大学の先生や学生と一緒に学習する機会を提供することで、地区内在住の小学生に対し大学での学習への興味関心を広げ、専門性の高い学習をすることができる。	R6年度	-	・神奈川工科大学 研究推進機構技術支援室KAIT工房 小林 操 マネージャー	2-1_市の講座に対する協力	荻野公民館・地区市民センター
2	荻野小学校区地域子ども教室「ものづくり体験教室」	荻野小学校区地域子ども教室の事業として、神奈川工科大学で、荻野小学校の生徒を対象にものづくり体験教室を行う。	子ども達が、ものづくりの知識を楽しく学び、論理的な思考を身に付けることを目的に「ものづくり体験教室」を開催する。	大学の先生や学生と一緒に学習する機会を提供することで、地区内在住の小学生に対し大学での学習への興味関心を広げ、専門性の高い学習ができる機会を設ける。	R6年度	-	・神奈川工科大学 研究推進機構技術支援室KAIT工房 小林 操 マネージャー	2-1_市の講座に対する協力	荻野公民館・地区市民センター
3	夏休み子ども体験教室 プログラミング教室	学級講座の事業として、神奈川工科大学の先生と学生を南毛利公民館に招き、地区内小学4～6年生を対象にプログラミング教室を行う。	教室を通じてプログラミングと神奈川工科大学に興味を持ってもらう。	大学の先生や学生と一緒にプログラミングを学習する機会を提供することで、地区内在住の小学生に対し大学での学習への興味関心を広げることができるとともに、専門性の高いプログラミング学習をすることができる。	R4年度	12	・神奈川工科大学 工学部電気電子情報工学科 金井 徳兼 教授	2-1_市の講座に対する協力	南毛利公民館・地区市民センター
4	学級講座「家庭菜園でペピーノを育ててみよう！」	学級講座の事業として、東京農業大学の先生を招き、ペピーノの栽培方法について学ぶ。	ペピーノについて知ってもらい、その栽培方法を学び、家庭で栽培してもらう。	東京農業大学及び厚木市がブランド化を目指しているペピーノについて、より多くの市民に認知してもらうことができる。	R6年度	20	・東京農業大学 農学部農学科 高畑 健 教授	2-1_市の講座に対する協力	南毛利公民館・地区市民センター
5	学級講座開催事業「ネイチャー教室」	東京農業大学の学生が指導者になり、小学生を対象にネイチャーゲームを実施する。	東京農業大学の学生と地域の小学生が、ネイチャーゲーム等を通じて交流を図る。	大学生と小学生という異なる世代間の交流を通じて、小学生に対し自然への学習の機会を設けるとともに、豊かな社会性を育むことに貢献している。	H15年度	55	・神奈川工科大学 尾崎 亮典 専務理事 ・湘北短期大学 総合ビジネス・情報学科 高嶋 章雄 教授 ・東京工芸大学 菅野 英夫 事務部長代理	2-1_市の講座に対する協力	愛甲公民館・地区市民センター
6	子育て支援センター夏まつり	屋内広場solaにおいて夏まつりを実施する。	保護者が子育ての楽しさを実感し、こどもとの健やかな生活につなげるとともに、子育てに携わっている湘北短期大学と一体となり、地域社会全体で子育てを支援することを目的とする。	夏まつりを通し、保護者が子育ての楽しさを実感することで、育児不安の軽減が図られる。また学生にこどもや保護者とふれあう場を提供することで、子育て支援に対する学びや意識向上につながる。	R6年度	200	・湘北短期大学 保育学科 高橋 雅人 准教授 生活プロデュース学科 二見 総一郎 講師 学生31人	2-1_市の講座に対する協力	こども家庭センター
7	子育て支援者研修会	地域で子育て支援に取り組む市民を対象とした研修を実施する。	地域で子育て支援に取り組むための基礎的な知識を得るとともに、実際に活動を展開するための具体的な支援方法について学ぶ。	子育て支援についての知識の習得に貢献するとともに、活動への意欲向上が図られる。	H22年度	60	・湘北短期大学 保育学科 副学科長 鈴木 弘充 教授 亀井 美弥子 准教授	2-1_市の講座に対する協力	こども家庭センター
8	身近な環境エコツアー「農大で生きもののさがしをしてみよう」	市内在住在学の小学生とその保護者が対象。参加者は、東京農業大学にある雑木林で専門的知識を持つ教授と学生のサポートを受けながら、生きもの探しを行う。また、採集できた生きものは、農大施設内で、学生の解説を交えながら参加者全員で観察する。	市内における生物多様性の豊かさを知ってもらうとともに、その重要性について理解を深めてもらう。	参加者に市内の身近にある豊かな自然を実感してもらうとともに、市内大学のPR効果、参加者の親子に向けた説明や対応など学生の成長も促す効果が期待できる。	R5年度	-	・東京農業大学 農学部生物資源開発学科 三井 裕樹 教授 学生14人	2-1_市の講座に対する協力	環境政策課

2-② 学習講座（大学の講座に対する協力）

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④必要性と効果	⑤事業開始年度	⑥事業費 (千円)	⑦参加者 (教授等氏名、学生等)	⑧協働の形態	⑨課等名
1	環境学習講座	神奈川工科大学の授業「Stop the CO2入門」の年度当初の講義にあたり、「ごみの正しい出し方」及び地球温暖化対策講座についての職員の派遣が依頼され、講義を行う。	「Stop the CO2入門」の講義を選択した学生に、ごみと地球温暖化対策の講義を行い環境意識を高め、授業を受講する学生の目的意識を高める。	「Stop the CO2入門」の授業を選択した学生にごみと地球温暖化対策の講義を行い環境意識を高め、授業を受講する学生の目的意識を高めることができる。	H21年度	-	・神奈川工科大学 研究推進機構技術支援室KAIT工房 小林 操 マネージャー	2-2_大学の講座 に対する協力	環境政策課
2	厚木市カーボンニュートラル推進ネットワーク	市と市内の企業、大学、金融機関等が、分野を超えて相互に連携、協力し「カーボンニュートラルなまちづくり」を進める中核的組織として、「厚木市カーボンニュートラル推進ネットワーク」を設立し、事業の検討、実施、情報の共有を行う。	各参加主体の脱炭素経営と市内のカーボンニュートラルなまちづくりを進める。	市内の主な主体である大学と連携してカーボンニュートラルに向けて取組を進めることは、学生を始めとした市民に対するPR効果が高い。	R4年度	-	・神奈川工科大学 研究推進機構技術支援室KAIT工房 小林 操 マネージャー	2-2_大学の講座 に対する協力	環境政策課
3	東京農業大学入門	東京農業大学からの依頼で同校の新入生必修科目である「東京農業大学入門」に職員を派遣し、「防災」「消費者生活」「薬物乱用」「闇バイト」「セーフコミュニティ」についての講義を行う。	東京農業大学の新入生に、防災、消費者生活、薬物乱用、セーフコミュニティに関する正しい知識を身につけてもらうとともに、安心・安全なまちづくりへの協働意識の向上を図る。	東京農業大学の新入生に、防災、消費者生活、薬物乱用、闇バイト、セーフコミュニティに関する正しい知識を身につけてもらうとともに、安心・安全なまちづくりへの協働意識を高めることができる。	H28年度	-	・東京農業大学 学生 584名	2-2_大学の講座 に対する協力	くらし交通安全課

3 学生ボランティア

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④必要性と効果	⑤事業開始年度	⑥事業費(千円)	⑦参加者 (教授等氏名、学生等)	⑧協働の形態	⑨課等名
1	つかみどり大会	玉川に生簀を仮設し、小学生を対象とした、鮎や鱈のつかみどり大会を実施する。	川に親しむシーズンをとらえ、当地区住民が自然と親しみながら住民同士のふれあいを促進する。	大会の円滑な運営（参加者受付補助、会場整理等）に大いに貢献している。 小学生が運営に携わる大学生の姿を見て「ボランティア」精神が育まれることに寄与。	H29年度	-	・神奈川工科大学 研究推進機構技術支援室KAIT工房 小林 操 マネージャー	3_学生ボランティア	愛甲公民館・地区市民センター
2	里地里山保全ボランティア	市内の里地里山の保全に関心のある大学生を募集し、市で認定する活動団体と一緒に保全作業を実施する。	里地里山の保全活動団体が抱える会員減少の問題に対応するとともに、大学の地域社会への貢献や学生の社会体験の場として、学生ボランティアを募集し持続的な保全活動を目指す。	活動団体の担い手不足を補うことと併せて、若い世代の作業参加による活性化を図る。また、学生には保全作業を通じて、地域とのつながりを経験することができる。	R5年度	-	・神奈川工科大学 研究推進機構技術支援室KAIT工房 小林 操 マネージャー	3_学生ボランティア	環境政策課
3	次世代防犯活動促進事業	高校生・大学生に対し、イベントでのボランティアや研修会、防犯パトロールへの参加募集を行う。	次世代を担う高校生、大学生の社会貢献への芽生えや、防犯意識の高揚を図るため防犯活動への参加を促進する。	高校生や大学生と、協働で防犯活動を行うことにより、相互のつながりが生まれ、学生に社会貢献への芽生えや防犯意識の高揚が図られる。	H21年度	194	・市内在学・在住の高校生・大学生	3_学生ボランティア	くらし交通安全課
4	学生等によるにぎわいアドベンチャー隊事業	厚木市及び厚木市まちなか活性化プロジェクトが学生等と協働して、「にぎわいアドベンチャー隊事業」を展開。 学生の目線を取り入れて、中心市街地のにぎわい創出につながる事業を企画開催する。	本厚木駅周辺における中心市街地のにぎわい創出と回遊性の向上を図る。	にぎわいアドベンチャー隊員との密な連携を図ることにより、学生の意見等を事業に反映することができ、幅広い世代に対しての情報発信や集客に寄与することが期待できる。 また、学生の顧客対応などのマーケティング教育の実践の場としての効果も見込まれる。	H20年度	3,500	・6月1日まで参加者を募集しているため、未確定	3_学生ボランティア	商業観光課
5	青少年非行防止活動事業（第37回心と街のクリーン作戦）	青少年の健全育成啓発活動として本厚木駅周辺において薬物乱用防止並びに非行防止活動キャンペーンを実施する。参加大学生及び高校生の一部は、実行委員として関与いただく。	青少年自らが啓発活動を実施し、青少年を取り巻く環境の美化と喫煙飲酒薬物乱用防止・非行防止を広く市民に訴える。	啓発活動の実施により青少年の健全育成を推進することができる。	H1年度	9,478	・神奈川工科大学 尾崎 亮典 専務理事 ・湘北短期大学 総合ビジネス・情報学科 高嶋 章雄 教授 ・東京工芸大学 菅野 英夫 事務部長代理	3_学生ボランティア	青少年教育相談センター

4-① 事業に対する協力（市の事業に対する協力）

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④必要性と効果	⑤事業開始年度	⑥事業費(千円)	⑦参加者 (教授等氏名、学生等)	⑧協働の形態	⑨課等名
1	市制70周年記念映画（フィルム・コミッション事業）	市制70周年記念映画「キリコのタクト〜YELL〜」をオール厚木ロケで製作する。	映画を通して国内外に向けて本市の魅力発信することを目指す。	市内の大学をロケ場所として活用し、さらに、学生がエキストラやボランティアなどで映画に関わることで、70周年機運の醸成が図られる。	R7年度	-	・神奈川工科大学 研究推進機構技術支援室KAIT工房 小林 操 マネージャー	4-1_市の事業に対する協力	広報シティプロモーション課
2	行政コンテンツ作成事業	デジタルサイネージ、インターネット、SNSなどの映像メディアを活用して配信する行政情報CMを、大学生の豊かな発想力と専門性をいかして作成する。	映像を通じた行政広報の充実を図るとともに豊かなコミュニティの創造を目指す。	大学の最新の技術と学生の斬新なアイデアを取り入れ、コンテンツを制作することができる。映像撮影や編集の実践になり、学生の技術向上や発表の場の提供にもつながる。	H18年度	220	・神奈川工科大学 研究推進機構技術支援室KAIT工房 小林 操 マネージャー	4-1_市の事業に対する協力	広報シティプロモーション課
3	小鮎公民館学級・講座「おもしろ理科実験」	学級講座事業として小学生を対象に理科の実験教室を実施する。（夏休み体験教室）	大学職員が講師となり理科実験を実施することにより、子どもたちが理科の不思議を楽しく学ぶ。	学校ではできない理科の実験を通して子どもたちが理科、科学の興味を啓発する。	R5年度	-	・東京工芸大学職員、学生	2-1_市の講座に対する協力	小鮎公民館・地区市民センター
4	あつぎ協働大学開設事業	市民の高い学習意欲に応えるため、大学の特色に合わせた「教養科目」、厚木市の概要等について学ぶ「協働科目」、市内企業と連携した、企業の取り組みなどについて学ぶ「企業科目」を実施する。また、講義で得た学びを有効活用し、自主的な市民活動へつなげることを目的に、受講修了者を対象に相互の交流促進や活動を始めるための実践的な知識・情報を習得する「実践科目」を実施する。	市民と行政の協働によるまちづくりを実現するため、学習機会を提供し、及び専門的な学習要求に応えるとともに、まちづくり等の活動を主体的にできる人材を育成する。	多様化・高度化している市民の生涯学習ニーズに応じており、受講者から高い満足度を得ている。	H20年度	2,383	・東京工芸大学 教授等5人(工学部工学科 越地 福朗 教授、ほか4人) ・神奈川工科大学 教授等5人(工学部電気電子情報工学科 金井 徳兼 教授、ほか4人) ・湘北短期大学 教授等4人(生活プロデュース学科 前田 久美子 准教授、ほか3人) ・松蔭大学 教授等4人(経営文化学部ビジネスマネジメント学科 南 春英 専任講師、ほか3人) ・東京農業大学 教授等4人(農学部農学科 中塚 博子 准教授、ほか3人)	4-1_市の事業に対する協力	生涯学習課
5	あつぎ協働大学特別講座	幅広い世代を対象に大学での研究にかかわる知識、技能、技術を講座として開催する。	市内5大学との協働・連携を通して、小中学生に知識、技能、技術を体験活動させることで、大学に対する興味関心を高め、学びの楽しさを知ってもらう。	多様化・高度化している市民の生涯学習ニーズに応じており、受講者から高い満足度を得ている。	H24年度	2,383	・神奈川工科大学 尾崎 亮典 専務理事 ・湘北短期大学 総合ビジネス・情報学科 高嶋 章雄 教授 ・東京工芸大学 菅野 英夫 事務部長代理	4-1_市の事業に対する協力	生涯学習課
6	厚木市職員採用試験	東京農業大学厚木キャンパスにおいて、厚木市職員採用試験を実施する。	厚木市人材育成基本方針に基づき、幅広い視野と感性を持った、意欲と情熱のある人材を確保する。	都市間競争が進む中、厚木市が将来にわたって持続的な発展を続けていくためには、意欲と情熱を持った人材を確保する必要がある。	H27年度	-	厚木市職員を志す学生・社会人等	4-1_市の事業に対する協力	職員課
7	あつぎSDGs推進事業	市内事業者や大学、庁内関係課の協力により、SDGsに関するパネル展示や体験コーナーを設けた「あつぎSDGsフェスティバル」を開催する。	来場者にSDGsの取組を広く周知するとともに、SDGsの自分ごと化を図る。	国や県は、SDGsの取組を積極的に推進しており、本市においても持続可能な社会の実現に向け、SDGsの取組を推進する必要がある。 「SDGs」という言葉や概念はとく「分かりにくい」と思われがちであるが、本事業の実施により、SDGsをより身近なものとして捉えていただくとともに、市民相互のつながりを深めるきっかけとする。	R4年度	2,500	・神奈川工科大学 ・松蔭大学 ・湘北短期大学 ・東京工芸大学 ・東京農業大学	4-1_市の事業に対する協力	企画政策課

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④必要性と効果	⑤事業開始年度	⑥事業費 (千円)	⑦参加者 (教授等氏名、学生等)	⑧協働の形態	⑨課等名
8	神奈川工科大学での防災対策 チェックリスト作成研修	地域連携及び防災対策に注力している神奈川工科大学にて、施設見学及び防災対策チェックリストの作成を啓発していく。	障がい者及び支援者が平常時から防災意識の醸成及び気付きの促進を目的とする。	神奈川工科大学のリスクマネジメント機能を活用し、一人ひとりが災害に備えた意識の向上に寄与することができる。	R4年度	-	・神奈川工科大学 地域連携・貢献センター センター長 小川 喜道 名誉教授 他	4-1_市の事業に対する協力	障がい福祉課
9	フレイル予防教室	フレイル対策が必要と思われる高齢者に対し、専門知識を有する者が作成した運動、栄養、社会参加等のフレイル予防に関する内容の健康教室を実施する。	令和7年度厚木市高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業の一環としてフレイル予防教室を開催し、参加者のフレイル予防を図る。	高齢者に対する運動機能評価等の研究を行っている大学が本事業に携わることで、独自の測定機器を使用するなど、他にはできない効果的な取り組みを実施することができる。 また、事業の効果としては、参加者のフレイル予防び医療費適正化に繋がる。	R3年度	4,400	・神奈川工科大学 情報学部情報システム学科 高橋 勝美 教授 地域連携・貢献センター 小川 喜道 センター長 他	4-1_市の事業に対する協力	国保年金課
10	PLATEAU（プラトール）講座	市内大学、市内企業に向けて3D都市モデルの周知を行う。	3D都市モデルを周知し、大学や企業の様々な分野で活用していただくことを目的とする。	3D都市モデルについて理解することで多様な分野での活用につながる。	R7年度	-	市内大学の学生、市内企業にお勤めの方 (神奈川工科大学については、神奈川工科大学地域連携・貢献センター センター長 小川 喜道教授と調整中)	4-1_市の事業に対する協力	都市計画課
11	3D都市モデルの活用	3D都市モデルを活用し、神奈川工科大学でXR（VR・MR・AR）の開発を行う。	3D都市モデルを活用し、様々な分野で利用できるXRを開発する。	XRを使った様々な分野で利活用ができるようになる。	R7年度	-	・神奈川工科大学 情報学部情報メディア学科 酒井 雅裕 教授	4-1_市の事業に対する協力	都市計画課
12	河川学習事業	準用河川恩曽川にある親水広場を活用し、水質調査及び水生生物調査並びにごみの状況調査を行う。	子どもたちが身近な河川での環境学習に取り組み、環境の実態を把握し、河川を大切にすることを育む。	専門的知識を持つ大学教授や学生から指導を受けることにより、子どもたちの河川に対する興味を広がり、身近な河川環境保全の大切さを次世代に引き継ぐことができる。	H19年度	123	・東京農業大学 農学部野生動物学研究室 佐々木 剛 教授、 野生動物学研究室学生35人	4-1_市の事業に対する協力	河川下水道総務課
13	学生消防団活動認証制度	厚木市消防団に入団している大学生、大学院生又は専門学校生が、消防団員として真摯かつ継続的に消防団活動に取り組み、顕著な実績を収め、地域社会へ多大なる貢献をした功績について、厚木市がその功績を認証する。	真摯かつ継続的に消防団活動に取り組み、顕著な実績を収め、地域社会へ多大なる貢献をした大学生、大学院生又は専門学校生」について、厚木市がその功績を認証することにより、就職活動を支援することを目的とする。	学生の就職活動を支援し、学生消防団員のメリットを付与することにより、消防団員の確保及び活動への意欲向上が図られる。	H29年度	-	・厚木市消防団に在団する学生等	4-1_市の事業に対する協力	消防総務課
14	SEL教育基金事業 (おもしろ理科教室)	厚木市SEL教育基金条例に基づき、確かな学力を身に付けた心豊かで健康な児童及び生徒を育成するために教室を実施する。	本市に事業所を置く最先端の科学技術を有する企業及び理工系大学との連携・協力を通じて、子どもたちに、豊かな活動を体験させることで、科学等への興味・関心を高め、理科好きの厚木の子を育成する。	子どもたちが最先端の科学技術に触れ、豊かな体験活動を行うことを通して、科学等に対する興味・関心を高めることができる。	H20年度	1,369	・神奈川工科大学 ・東京工芸大学 ・東京農業大学 各大学から数名参加	4-1_市の事業に対する協力	教育指導課
15	ロボット教室	子ども科学館が主催するイベントにおいて、来館者を対象とし、学生が講師となって工作教室を行う。	子どもたちの科学や物づくりへの関心を深める機会を創出するとともに、ロボット製作を中心に活動する学生団体が日頃の研究成果を発揮し、工作指導の経験を積む場として開催するもの。	大学のノウハウを借りることで市民サービスの向上を図るうえで効果的である。	H26年度	13	・神奈川工科大学 KAIT EDTCの学生6名	4-1_市の事業に対する協力	青少年課

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④必要性と効果	⑤事業開始年度	⑥事業費 (千円)	⑦参加者 (教授等氏名、学生等)	⑧協働の形態	⑨課等名
16	サイエンスウインター2025	子ども科学館が主催するイベントにおいて、来館者を対象とし、市内高校生及び大学生、その他市民団体等が講師となつて、実験や工作教室を行う。	市内の大学、高等学校及び市民活動団体との市民協働による、子どもたちの科学や物づくりへの関心を深める機会を創出するとともに、学生を始めとする各出展団体の日ごろの研究成果を発表する場として、開催するもの。	大学のノウハウを借りることで市民サービスの向上を図るうえで効果的である。	H26年度	-	・神奈川工科大学 工学部電気電子情報工学科 三栖 貴行 教授 (教員1名、学生6名) KAIT EDTC (学生 6 名)	4-1_市の事業に対する協力	青少年課
17	大学図書館・公民館図書室等ネットワーク事業	市立図書館所蔵資料の大学図書館への貸出(学生・職員の利用)や市民の大学図書館閲覧利用、市立図書館を経由して大学図書館所蔵資料を市民に貸出する。	大学図書館との相互協力により、市内大学に通う学生・教職員に対する図書館サービスの充実を図るとともに、市民も大学図書館の情報力を活用することができるようにする。	大学の学生・教職員の利便性を維持し、市民が大学図書館の専門情報を利用するために、必要な事業である。また、大学図書館の地域開放を促す効果があると考えられる。	H13年度	34,517	・神奈川工科大学 ・松蔭大学 ・湘北短期大学 ・東京工芸大学 ・東京農業大学	4-1_市の事業に対する協力	中央図書館
18	教育支援教室運営事業(教育支援教室集団体験「動物飼育活動」)	教育支援教室通室児童・生徒等が、専門的知識を持つ東京農業大学の准教授と学生のサポートを受けながら、動物飼育活動を行う。	教育支援教室通室児童・生徒等が、動物飼育活動を通して、人と関わることの楽しさや動物にふれる喜びを味わうことにより、集団生活への適応を図る。	小集団での体験活動を通して対人関係のスキルを向上させ、また、達成感や満足感を味わうことにより、自尊心や自己肯定感の向上につながる。	H26年度	16,017	・東京農業大学 川嶋 舟 准教授、学生約15人	4-1_市の事業に対する協力	青少年教育相談センター
19	教育支援教室運営事業(教育支援教室集団体験「サイエンスデー」)	教育支援教室通室児童・生徒等が、専門的知識を持つ神奈川工科大学の教授と地域連携・貢献センターのサポートを受けながら、理科実験教室を行う。	教育支援教室通室児童・生徒等が、理科実験教室を通して、人と関わることの楽しさや理科にふれる喜びを味わうことにより、集団生活への適応を図る。	小集団での体験活動を通して対人関係のスキルを向上させ、また、達成感や満足感を味わうことにより、自尊心や自己肯定感の向上につながる。	R7年度	16,017	・神奈川工科大学	4-1_市の事業に対する協力	青少年教育相談センター

4-② 事業協力（大学の事業に対する協力）

No	①事業名	②事業概要	③事業目的	④必要性と効果	⑤事業開始年度	⑥事業費 (千円)	⑦参加者 (教授等氏名、学生等)	⑧協働の形態	⑨課等名
1	オーストラリア学生交流事業	オーストラリアからの学生が市内大学を訪問し、授業参加や日本文化体験等を通して、国際交流を深める。	湘北短期大学と姉妹提携を行っているオーストラリア ニューカッスル大学の学生が厚木市を訪問し、湘北短期大学学生や厚木市民との交流を図る。	湘北短期大学と姉妹提携を行っているオーストラリア ニューカッスル大学の学生が厚木市を訪問し、湘北短期大学学生等が中心となって実施する国際交流を支援することで、未来の国際交流を担う学生同士の交流を活性化させることに寄与している。	H14年度	150	・神奈川工科大学 研究推進機構技術支援室KAIT工房 小林 操 マネージャー	4-2_大学の事業 に対する協力	企画政策課
2	神奈川工科大学健康医療科学部看護実習生受入れ	神奈川工科大学の学生を、市内公立保育所4園にて受入れる。	学生の保育、小児看護への理解を深めるとともに、看護師を目指す学生の資格取得に寄与する。	学生は、保育所での保育活動や健康な児童の姿を観察し、認識と理解を深め、心構えや態度を研修し、将来の看護師としての資質を高める。	H29年度	-	・神奈川工科大学 研究推進機構技術支援室KAIT工房 小林 操 マネージャー	4-2_大学の事業 に対する協力	保育課
3	湘北短期大学保育実習生受入れ	湘北短期大学の学生を、市内公立保育所4園にて受入れる。	保育所での保育活動や児童への認識と理解を深め、児童との関わり方や心構えを学べる場とし、保育士を目指す学生の資格取得に寄与する。	保育所での保育活動や児童への認識と理解を深め、児童との関わり方や心構えを学べるとともに、保育士の仕事の楽しさを知ること、保育士として働く意欲を高めることにつながる。	H13年度	-	・湘北短期大学 保育学科 高木 友子 教授 湘北短期大学学生（保育学科）2 園 8 名	4-2_大学の事業 に対する協力	保育課
4	湘北短期大学保育ボランティア受入れ	湘北短期大学の学生を、市内公立保育所4園にて受入れる。	学生の保育への理解を深めるとともに、保育士としての資質向上を図る。	保育活動や児童の姿を知り、実際に触れ合うことで、子どもと関わることや保育の楽しさを知り、学生の保育士資格取得への意欲を高め、将来の保育士としての人材確保につながる。	H21年度	-	・湘北短期大学 保育学科教授 平岡 秀美 講師 湘北短期大学学生（保育学科）3 園21名	4-2_大学の事業 に対する協力	保育課
5	松蔭大学看護学部実習受入れ	看護学部の臨地実習を受け入れ、学生が地域の高齢者との交流や、森の里公民館にて「町の保健室（健康測定）」を実施する。（老年看護学）	市内大学で看護師を目指す学生の資格の取得に寄与する。	老年看護学実習として、病院や介護施設での実習では体験できない、健康な高齢者への支援について学ぶことができる	-	-	・神奈川工科大学 尾崎 亮典 専務理事 ・湘北短期大学 総合ビジネス・情報学科 高嶋 章雄 教授 ・東京工芸大学 菅野 英夫 事務部長代理	4-2_大学の事業 に対する協力	健康医療課
6	神奈川工科大学健康医療科学部実習生受入れ	神奈川工科大学の学生を市立小学校の単独調理場および学校給食センターにて受入れる。	学生の学校給食への理解を深めるとともに、管理栄養士としての資質向上を図る。	大学の必修科目である実地研修を本市で行うことにより、事業目的の達成に寄与することができる。	H22年度	-	・神奈川工科大学 学生（健康医療科学部管理栄養学科）12名	4-2_大学の事業 に対する協力	学校給食課